

(6) 実践事例6 児童の予想と社会的事象との感覚のずれを基にした学習問題づくり【単元の導入】

単元の指導計画

単元名

第6学年 「新しい日本、平和な日本へ」（全7時間）[東京書籍6年上]

単元の目標

日本国憲法の制定、オリンピックの開催など我が国の戦後の歩みを調べることを通して、戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かるとともに、平和で民主的な国家の一員として、これからの日本の課題やよりよい発展について考えるようにする。

学習指導要領の内容（1）ケ

「日華事変、我が国に関わる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること」

単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
<ul style="list-style-type: none"> 我が国の戦後の歩みに関心をもち、進んで調べている。 平和で民主的な国家の一員として、日本の課題やよりよい発展について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の戦後の歩みについて、学習問題や予想、疑問、学習計画を考え表現している。 戦後、我が国が民主的な国家として出発したことや国民の不断の努力、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことについて考え、言語などで適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用して、戦後改革や日本国憲法の制定、国際社会への復帰、東京オリンピック、産業の発展などについて必要な情報を集め、読み取っている。 調べたことを年表やノート、ワークシートなどにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。 自分たちの生活の歴史的背景を理解している。

単元の構造（全7時間）

（第1時）学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう。

（学習問題Ⅰ）戦後20年日本はどのようにして発展してきたのだろう。【知識や概念の習得】

※「調べる」視点「政治」「国際関係」「国民生活」

（第2時）日本の戦後改革を「政治」の視点から調べよう。

国民中心の国づくり **二度と戦争をしない約束** **国民の権利を大切にする**

（第3時）日本の戦後改革を「国際関係」の視点から調べよう。

外国に認められる国づくり（信用回復） **国民の努力**

（第4時）日本の戦後改革を「国民生活」の視点から調べよう。

世界の情勢と高度経済成長 **国民の努力**

（第5、6時）学習問題Ⅰについて、調べたことをまとめよう。

※「政治」「国際関係」「国民生活」の視点に、「環境問題」の視点を加えてまとめる。

政治による改革、国際関係の修復、国民生活の向上は、国民の努力によるものだった。

高度経済成長の陰には、公害などの環境問題が起こり、改善を図り努力してきた。

（第7時）これからの日本は、どのような国を目指していけばよいか考えよう。

現在の日本が直面する課題がある。

（学習問題Ⅱ）これからの日本はどのような国を目指していけばよいのだろう。【知識の活用・定着】

戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かる。

授業改善の視点（○）と取り入れた具体的な手立て

○児童がもった問題意識から、資料を読み取る視点を示し、スモールステップで段階的に考えさせることで、単元を貫く学習問題を児童と共につくる。

「つかむ」過程

- ① 写真資料や解説文の読み取りをさせる際に、読み取る視点「人物の思いや願い」を示し、1つ写真を例に挙げて読み取り方を学ばせる。
- ② 学んだ読み取り方を使って、複数の写真資料の読み取りを行わせる。
- ③ 複数の写真資料の読み取り結果について、共通点を見付けさせたり、どんなことが考えられるかを予想させたりすることで、複数の資料を関連付けて分かったことや考えたことを表現できるようにする。
(①②③とスモールステップを踏ませて予想させたり、理由を考えさせたりする。)
- ④ 児童の予想と社会的事象との感覚のずれを生じさせる学習活動を仕組み、教師の問いかけや問い返しを意図的に行う。このようにして、感覚のずれから生じる疑問や驚きを引き出し、児童の問題意識をもたせながら学習問題Ⅰを児童の言葉を使ってつくる。

「調べる」過程

- ① 「つかむ」過程で児童がもった問題意識を大切にし、問題解決に向けて調べる視点を、前単元と同じ視点「国民生活」「政治」「国際関係」にすることで、児童が「調べる」活動に取り組みやすいようにする。
- ② 毎時の振り返りの際、学習問題に立ち戻り、別紙のワークシート（**実践事例6 児童用ワークシート-1**）に考えを記述させることで、児童の学習問題Ⅰの解決に対する意識を継続させる。

○学んだ複数の情報を関連付けて説明させる活動を取り入れる。（学習問題Ⅱの設定）

「考え・まとめる」過程

- ① 現在の日本が直面する様々な課題について、「一番優先させるべき課題は何か」を問いかけ、意思決定を迫ることで、「調べる」過程で調べたことや考えたこと、これまでの歴史学習で学んだことを基に、これからの社会について考えさせる。
- ② 単元の最後に、歴史を学んだ意味について問いかけることで、思考力・判断力・表現力の育成とともに、社会的事象に対する関心・意欲・態度の形成をねらう。